

知事選振り返って

県財政建て直しの進め方などが問われた26日投開票の知事選。無所属同士の一騎打ちを制したのは現職の石井正弘氏だった。「石井カラー」を出し、やりたいことをするべきだ」。県の行革にも携わった経験がある岡山山大学院社会文化科学研究科の中村良平教授(55)(公共政策)に選挙を振り返ってもらい、今後の県政のかじ取りがどうあるべきかを聞いた。

(聞き手・今村真樹、桑原尚史)

——今回の結果をどう分析するか

新人の住宅正人さんの立候補表明は告示1か月前。本来なら、大きな不祥事もなく12年間やってきた石井さんの圧勝だ。しかし、岡山、倉敷両市と早島町では住宅さんの得票が上回る

中村良平・岡山山大学院教授(社会文化科学研究科)



4期目を迎える石井知事の県政運営について語る中村教授(岡山大で)

思い切った石井カラーを

など批判票も多く、激戦となった。倉敷子ボリ公園について、

もっと早く補助金を削ったり、県民公園化したりするなどの対応をしなければならなかったのが原因だろう。この問題は、きちんとした

↑ 県行財政改革懇談会専門委員や、香川県行財政改革推進会議の副議長などを務め、現在は「倉敷子ボリ公園事業検証委員会」委員長

総括が必要だ。

——有権者はなぜ、石井氏を選んだか

住宅さんは岡山を変えようとするローガンに掲げたが、具体的に何がどう変わるのか分からず、手腕が未知数。保守層を中心に、現職の知事でマニフェストが具体的な石井さんの方が、リスクが少ないと判断したのではないか。

——今後、どう県政に取り組

むべきか

石井さんは4期目が最後ではないかと思う。これまででは控えたが、はっきりと「石井カラー」を出せるチャンスだ。倉敷子ボリ公園や吉備高円都市などの呪縛にとらわれず、「何のために知事になったのか」の意味を示すためにも、思い切ったことをやるべきだ。

——具体策は

行財政改革や産業振興に取り組むこと。県民は閉塞感のある現状を打破したいと思っている。まずは地域を盛り上げるため、雇用を増やす施策に取り組むべきだろう。道州制ではなく、まずは県のことを考えないと。まずは県のことを考えないと。外郭団体の整理も不十分だ。財政を把握する、(備中松山藩の藩政改革に従事した)山田方谷のようなタイプの副知事も必要ではないか。中央省庁から出向で来る副知事なら、ドライに改革を実行できる。